

教職課程センターだより 第30号

発行日 2023年11月30日

巻頭言

学校は〈自由〉になる力を得ることができる場所なのでしょうか

教職課程副センター長 橋本洋治

みなさんにとって、大学入学前までの学校はどんな場所でしたか？友だちや先生との関わりなどを通して、楽しかったこと、嬉しかったこと、悔しかったこと、怒ったこと、辛かったことや悲しかったことなど、きっとさまざまな思いがあるでしょう。

さて、今の日本では、地域に学校があること、そして誰もがそこに通うことがほぼ当たり前になっていますよね。その意味で、学校はおおよそ「よき」存在として受け入れられているようにもみえます。ただ、果たして本当にそうなののでしょうか。

当時とは時代背景や状況は異なるものの、中高生を始め多くの若者の共感を呼び一世を風靡したアーティスト、尾崎豊はその楽曲「卒業」（CBS ソニー、1985年）の中で「この支配からの卒業」と表現しています。彼にとっての学校は自身の「自由」を徹底的に束縛するような存在だったのかもしれませんが。また、イヴァン・イリッチは「学校に就学させることによってすべての人に等しい教育を受けさせるということは、できない相談」としています（東洋・小澤周三訳『脱学校の社会』東京創元社、1977年）。そもそも学校という存在は一部の子どもたちのためのものでしかないのでしょうか。いずれにしても、学校を無条件に「よき」ものとするには慎重でなければならないようです。

それでは、すべての子どもたちにとって有意義な学校となるために何が必要となるのでしょうか。このことを検討するための一つの視点として、私たちは何のために学校に通っているのかということをいろいろと考え、それらをさらに深めてみるのが役に立つかもしれません。例えば、「進学のため」「就職のため」「将来の生活のため」「友人をつくるため」など、さまざまな答えが予想されますよね。苦野一徳は、このような問いへの絶対の正解があるわけではないとしつつも、学校の根本的な役割を「家庭や地域に関係なく、すべての子どもたちに〈自由〉になる力をはぐくむことを保障するため」と指摘します（『勉強するのは何のため?』日本評論社、2013年）。自由という言葉は、何からも束縛されない状態というイメージが強いかもしれませんが、（何らかの力を身につけることによって）自分の思うように生きていくという意味もあるそうです。

教職課程履修中の皆さん、そしてこれから履修をご検討の皆さん。果たして、学校は子どもたちが〈自由〉になる力を得ることができる場所となりえているのでしょうか。さあ、それではご自身で、そしてみんなで考えてみましょう。



スタートアップ講座に参加して

スポーツ科学部 スポーツ科学科3年 鎌瀬柚綺

今回私がスタートアップ講座に参加した理由は、教員採用試験に向けてどう自分が行動していけばいいのか分からず、何か情報を得たかったからです。教員採用試験に向けて何か行動しないといけない、勉強を始めなければいけない、と思っていたのですが、なかなか自分だけではどう手を付けたらいいのか分からず困っていました。そして、3年生の教職の授業でスタートアップ講座があるということを知り、「とりあえず受けてみよう!」という思いで受講を決めました。

○参加してみて良かったこと

★教員採用試験の細かい情報や対策について知れる

スタートアップ講座では、それぞれの自治体の倍率について、何をどのテキストで勉強したらいいのか、面接や小論文の対策など、教員採用試験の対策に繋がる細かい情報を知ることができました。受講するまで何も知識が無い私は、愛知県出身なので愛知県のみ受験しようと考えていました。ですが、他の自治体と上手く併願することで合格に繋がりやすいと聞き、倍率や問題の傾向などを見て他の自治体も受験しようと思うきっかけになりました。

★他学部との学生との関り

普段の生活では同じ学部の学生としか関わりが無いですが、スタートアップ講座に参加して他学部の学生とグループワークを通して関わることができました。そこでは、教採に対する不安や意気込みなど様々な思いを共有し合い、一緒に戦う仲間として仲を深めることができました。普段関わらない学生同士だからこそ、お互いに刺激を与えられる貴重な時間だったと思います。

○受講後、教員採用試験に向けてどう取り組んでいるか

スタートアップ講座を受講後、推奨されていた過去問を購入し、勉強を行っています。また、教員採用試験を受ける仲間と自主ゼミを作り、毎週空き時間を活用して勉強会を行うようにしています。毎日勉強はなかなか難しいですが、1日1回必ず過去問を解くように心掛けています。

○教員採用試験への意気込み

「教員採用試験は団体戦」であるため、同じ教員を目指している仲間や先生方と協力して勉強や面接対策に励んでいきたいです。私は高校の保健体育の教員を目指しています。愛知県は倍率が高く難しい県と言われていますが、合格している人がいるということは自分にも可能性はあるということです。「合格」を勝ち取れるよう、強い気持ちをもって自分を信じて頑張ります!





教員採用試験対策講座

一次試験対策直前対策講座に参加して

教育・心理学部 子ども発達学科 学校教育専修4年 辻本絵梨奈

1 参加理由

私が一次試験直前対策講座に参加した理由は、不安があったからです。私は高校も大学も推薦で、本格的に勉強するのは初めてでした。勉強を毎日やるなかで、本当にこの勉強方法でいいのか、しっかり頭に入っているか、正解が分かりませんでした。しんどくて辛い日もあり、自分自身との戦いでした。しかし、自分が決めた道であるため、可能な限り努力することを心に決めていました。そのため、一次試験対策講座にも参加しました。

2 講座内容

前半に先生が作ってくださった最新の問題を解きました。教職教養と一般教養それぞれあり、時間を計測し、時間配分も考えながら全問解きました。その後は、答え合わせと解説もあります。自分では難しい最新の問題が勉強できます。後半は、45分を二回の二次対策の面接でした。この時は、参加人数も少なく、一回目は先生二人の二対一で面接練習を行なってください、本番に近い形で練習しました。

3 講座から得られたこと・学んだこと

筆記の方では、最新の問題を解いて教員採用試験に向けて勉強することができ、自分の苦手な問題や頭に入っていない問題を把握することができました。最新の問題はどういう形式で問題が出るか、どのような問題が出るか予測することができ、勉強すべきポイントを見つけられました。

面接練習では、初めての二対一でより緊張しました。質問の答えについて追質問をされ、この時は全然できませんでした。しかし、本番では複数の面接官がいて、追質問されるので、とても良い経験で貴重な機会でした。

この講座で一番得られたことは、モチベーションでした。一次試験直前対策講座は教員採用試験まであと一カ月を切っているぐらいで勉強の方もメンタルもしんどいと思っていた時期です。そのため、参加して問題を解けた安心感やここが足りていないからもっと努力すべき等と、あと少し頑張ろうと思えた場でした。

4 教採対策講座について

教員採用試験対策講座はほとんど毎回参加しました。理由は最初に述べたように自信がなく不安だったからです。しかし、正直言うと毎回申し込みをする際に「嫌だな、参加したくないな」と思っていました。でも「今頑張らないと後悔する、もっと頑張らないと」と自分に喝を入れていました。また、負けず嫌いな性格から、自分に負けるのが悔しいと感じていたからです。一人で勉強していると、しんどくて辛い時もあります。もう辞めたいと逃げ出したくなる時もありましたが、このような試験対策講座に参加すると、「みんなも頑張っているから負けられない」という気持ちになります。見て学び、人のいいところは盗んで、自分のダメなところは直すことができます。先生方はしっかりとご指導下さいます。私は教員採用試験対策講座に参加して心から良かったと実感しています。



二次試験直前対策講座に参加して

教育・心理学部 子ども発達学科 学校教育専修4年 本田優介

○面接の壁にぶち当たって

「面接を制する者が教員採用試験を制す」という言葉を大学の先生や、実際に教員採用試験を受験された先輩方から聞かされていた私は「面接なんて自分のことについて聞かれてそれについて話をするだけなのだから余裕だろう」そう高を括っていた。

そんな私は4年生になって、いよいよ本格的に教員採用試験対策に着手しようと友人とともに面接練習をおこない、そこで初めて洗礼を受けた。

「なぜ教師になろうと思ったのですか」「あなたにとって理想の教師像は」こういった定番といえる質問内容に対してすら十分な受け答えができなかったのだ。ある程度の答えは頭の中には用意はしているものの、それらが抽象的なものばかりで、一度深掘りなどされようものなら完全に沈黙してしまう。自分が自分のことを全く理解できていないということを痛感したと同時に、裏を返せば面接対策とは「自分のことを知る」ということなのだとそこで学んだのだった。

○二次試験直前対策講座に参加して得たもの

やがて一次試験を終えた私は、面接に完全に焦点を当てるために二次試験直前対策講座に参加した。初めて面接練習をしたその日以来、複数回練習を重ねていたものの、答えられない質問が出たり、ともに面接練習をする友人の受け答えと自分の受け答えを比較したりすることによって劣等感を募らせていた私は、やがて面接練習に行くことを拒んでしまった。だが、それでも二次試験の日程は日に日に迫ってくるので対策しないわけにもいかず、言葉は悪いが、渋々当講座に参加したのだった。

そして、そこで面接を見てくださった一人の先生にこんな言葉をかけてもらった。「面接は60点でいいんだ」。この言葉を聞いて、心がふっと軽くなった自分がそこにいた。それまでの私は完璧を求めすぎて、身が固まって思うように考えや気持ちを伝えきれていなかった。だからちょっとしたことで落ち込んで、他人と比較して、自分を出し切れていなかった。その言葉をかけてもらって「多少はうまくいなくて当たり前。それよりも自分らしくいこう」。そう開き直って、前に進んでいくことができた。

○二次試験直前対策講座に参加する利点

二次試験直前対策講座に参加する利点として、普段の面接練習を見てもらっていない先生にも見てもらえることによって、私のように新たな発見ができる可能性が大いにあるということや、あらゆる学生の面接を見てそこから学べることが多いこと、などが挙げられるのではないだろうか。少なくとも私は、二次試験直前対策講座に参加したことが、自分に自信を持つ一つの大きなきっかけとなったし、最終的に教員採用試験の合格を勝ち取ることもできた。面接に苦手意識を抱いている人ほど有意義な講座なのではないかと私は感じた。





合格体験記（岐阜県・小学校）

教育・心理学部 子ども発達学科 学校教育専修4年 今井飛力

なぜ教員になりたいと思ったのか

教員になりたいと思うようになったのは、高校生の時に部活動指導のボランティアをしたことがきっかけです。その時に出会ったある子どもは、家庭では日常的な暴力に苦しみ、学校では自分の苦しみを知らないで怒ってくる教員に不信感をもっていました。普段から理不尽な扱いをしてくる教員に家庭での悩みを話しても、真摯に向き合ってくれないのではないかと感じ、私に相談しようと思ったそうです。

このボランティアを通して、どんな子どもにも生きづらさがあることを知りました。また、それを無視して、子どもと関わる大人が多いと感じました。そのため、子どもの生きづらさに向き合うことができる教員になりたいと思い、日本福祉大学入学しました。

大学での学びは、子どもと関わる中で感じた教育への違和感の正体を解明する事ができるものでした。これまで「なんとなくおかしい」と感じてたことを、構造的に理解することができたと思います。

教員採用試験に向けて

私の場合、教員になりたいという思いの根本にあったものは、今行われている教育への批判でした。これは、大学での学びを深めるのには役に立つものでした。しかし、教員採用試験の対策においては、必ずしもそうではありませんでした。岐阜県教採の面接は、民間企業人事担当者や教育委員、校長が担当します。今行われている教育を批判するような意見を言っても、面接官が採用したいとは思わないでしょう。

何でも正直に自分の考えを述べればよいと言うわけではないところが、面接試験の難しいところだと思います。また、自分ではよいと思った意見でも、他者に聞いてもらおうとそうではないということもあります。そのため、複数人で集まって面接練習を行ったり、大学の先生に指導していただいたりすることを強く勧めます。

教採対策講座に参加することも大切です。私は毎週、特定のメンバー、先生と練習していましたが、講座ではいつもとは違うメンバー、先生と練習することができるので、普段とは違う視点からアドバイスをもらうことができました。また、同じ目標を持つ人と集まって練習する機会は、モチベーションの向上にもつながると思います。

どんな教員になりたいか

面接練習は、大学4年間の学びを総括し、なりたい教員像を具体的に描くことにも役立ちました。そういう機会はなかなかないので、今までの学びを振り返るよい機会にしてほしいと思います。

私は、ありのままの自分を理解してほしいという子どもの思いを受け止めることができる教員になりたいと考えています。教員や大人、社会の子どもへの思い（エゴ）がひとり歩きし、子どもの思いや願いがないがしろにされてしまうことがあります。教員が子どものためと思って指導していても、子どもが納得していなければ意味がありません。子どもの思いや願いを正面から受け止めること、「なぜ、どうして」という子どもの疑問を大切にすることが教員に求められていると思います。

最後まで読んでいただき、ありがとうございました。教員採用試験の具体的な対策・勉強法は、『合格体験記』という冊子に詳しく書いておきます。自分の目標に向けて頑張ってください。応援しています。



合格体験記

(名古屋市・神奈川県 特別支援学校)

教育・心理学部 子ども発達学科 学校教育専修4年 三輪格之信

1. 受験対策・勉強法について

私が一次試験対策を本格的に始めたのは、3年の2月からでした。両自治体とも、一次試験の試験科目は一般・教職教養、専門試験、小論文と共通していました。そのため、対策がしやすかったです。専門試験では、東京アカデミー七賢出版が出している「教員採用試験対策専門教科特別支援教育」から始めました。私は、名古屋市が第一志望だったので、名古屋市の過去問から頻出分野を調べて、重点的に行うようにしました。この問題集は、最終的には10周以上行いました。また、時事通信出版局が出している「特別支援学校新学習指導要領パスライン」を用いて、総則と各教科の目標を全て覚えました。学習指導要領を全て覚えることで、文部科学省の独特な言い回しの特徴を覚えることができ、初めて見る問題でも解くことができるようになりました。6月からは、時事通信出版局が出している「特別支援教育の完全攻略」を始めました。こちらも、10周ほどしました。「教員採用試験対策専門教科特別支援教育」と比べると難易度が高いように感じ、交互にやることで知識が定着したように感じました。

教職教養は、協同出版が出している「全国まると過去問題集#教職教養」を行いました。こちらも、頻出問題を分析して重点的に行いました。こちらも、10周以上行いました。一般教養では、CDP 講座の内容を見直したり、テキストを用いたりして、対策をしました。

7月から名古屋市の過去問題を解いて、答えることができなかった箇所は、上記の問題集で振り返るということをひたすら行っていました。

2. 後輩へ伝えたいこと

私は、複数の自治体を受験することをお勧めします。私は名古屋市が第一志望だったので、一次試験と二次試験が名古屋市の2週間前に行われる神奈川県を受験しました。そうすることで、解けなかった問題や答えられなかった問題を名古屋市の受験日までに対策をすればいいという気持ちを持つことができますし、受験会場の雰囲気になれることもできます。また、受験先を選ぶ際に大切にしてほしいと個人的に考えるのは、合格するのが「ゴール」ではなく、「スタート」であるということです。受験先を選ぶときにどうしても気になってしまうのが、倍率だと思います。ですが、合格をした場合その地での生活が始まります。私は、中日ドラゴンズが好きで野球観戦が趣味です。そのため、名古屋市もしくは、セ・リーグのチームがある自治体がいいと考え志望しました。もし、そのような趣味や生活しやすい場所がいいなど、こだわりが少しでもあるならばその点も考慮して選択してもいいのではないのかと考えます。

勉強は大変かと思いますが、息抜きの時間は必要だと感じました。私は、神奈川県の一次試験の3日前にバンテリンドームに野球観戦に行っていました。また、ある日は自転車でナゴヤ球場まで行き二軍戦を炎天下の中で見た後に、地元の図書館へ自転車で向かい閉館時間まで勉強をするもありました。名古屋市の試験前にもバンテリンドームへ野球観戦に行きました。今となっては、とてもいい息抜きになったと思います。

合格を目指して、頑張ってください！私も新たな地で頑張ります！





合格体験記(岐阜県・長野県 特別支援学校)

スポーツ科学部 スポーツ科学科4年 松浦遼太郎

1. 一次試験対策

一次試験対策では、筆記試験を中心に勉強しました。集中して勉強することができなかったため、勉強場所を変えたり、1領域だけ集中して行うということを継続しました。

専門教養に一番時間をかけました。岐阜県と長野県では、専門教養の配点が高かったからです。特に自立活動の領域を中心に勉強しました。過去の傾向から、各教科等に関しては勉強しませんでした。勉強を進めていくと、どれだけやれば確実に覚えられているのか不安になることもありました。私は、「モンスターで運極をつくりながら正解の回答を答えることができるようになったら、この領域はOK!」としていました。(笑)

教職教養に関しては、「聞いて覚える」勉強方法で行いました。具体的な内容になりますが、車や電車に乗っている際や何か勉強以外のことに取り組んでいる際に、YouTubeにある「聞き流し動画」、「一問一答」を絶えず繰り返し聞きました。最初は何を言っているのか全く分かりませんでした。何度も聞いていると勝手に先の文や回答が分かるようになりました。私は、勉強することが好きではなかったため、強制的に聞くことで嫌でも記憶に残るという方法が合ったのだと思います。

一般教養ですが、学習塾のアルバイトを行っていたため、ほとんど、取り組んでいないです。さまざまな自治体の過去問を見てみると、自治体ごとに傾向があったので、ある程度、割り切った方がやりやすいのかなと思いました。私は、社会科が苦手であったため、比較の出題傾向が高い近世のところだけ目を通して、あとは勉強していません。

2. 二次試験対策

二次試験対策では、面接練習をとにかく行いました。幸いなことに、私の周りには、面接練習を共にしてくれる仲間が多くいたので、楽しくわいわい行いました。面接練習では、信頼できる先生を見つけて行くとよいと思います。大学の先生方は、私たちよりも多くの経験があり、面接の回答につながるからです。また、面接では、具体的な方法や経験、対応について聞かれることがあるため、子どもと関わることでできるボランティアやアルバイトに一度は参加するとよいと思います。やはり、一度経験してみないと、現場をイメージできないし、中身の無い回答になると思うからです。

一人で行う面接練習についてですが、私は、面接内容を書き出し、ランダムで問題を出題し、答えるということを行いました。回答は全部暗記するというよりは、キーワードや伝えたいことを暗記し、その時の自分の言葉で伝えるようにしていました。すらすら言うとは面接官に暗記しているなと思われるし、逆に言葉やキーワードがでないと面接が進まないです。本番は、短く、具体的に伝えることを大切にしました。ゲームのチュートリアルの説明って長いとめんどくさくなりますよね、多分、あれとおなじかなと思います。(笑) 面接官も長々と話聞かされると、「この受験者は何を伝えたいんだろう」と思うと思います。

3. 最後に

私自身、長い説明が苦手なので、行ったことを簡単にまとめます。

筆記試験

- (1) 自己理解(筆記試験では得意、不得意な領域の理解)
- (2) 勉強(とりあえず、問題集を数回行いました)
- (3) 過去問や模試に取り組む(自治体の傾向をつかむ)
- (4) 出題傾向の高い領域を復習

面接対策

- (1) 自己分析（教師としての軸や教師を志望した理由や経験等について考える）
- (2) 練習（先生や仲間と考え合ったり、聞き合うこと）
- (3) 本番を想定した練習
- (4) 一人で練習（試験前日や家にいるとき）

自分のペースで試験対策に臨むことが一番かなと思います。他のひとに「勉強してる？」、「いや、全然やっていないわ」という会話をよく聞きますが、他人を比べても意味がないとおもうので。遊びたくなったら、少し遊んだり、休憩するなど、追い込みすぎないことが大切かと思います。つらいときもあるかと思いますが、頑張ってください！いつか、この記録を読んだ皆さんと同じ職場で働けることを願っています！応援しています。



合格体験記（愛知県・東京都 中学英語）

国際福祉開発学部 国際福祉開発学科 4年 内海彩音

私は愛知県と東京都を併願受験し、愛知県、東京都共に合格を頂きました。受験が近づいた際に大切にしていたこと、試験対策の方法、試験を終えて後輩に伝えたいことをまとめました。私の体験記が少しでも、皆さんの背中を押すことのできるものになっていたら嬉しいです。

〈私が大切にしていたこと〉

① 日々の大学での学びの時間を大切にする。

私たちが教職科目や、心理学などの授業で学んでいることこそが試験対策です。日々の授業を一生懸命受け、課題にも手を抜かず取り組むことで、ある程度授業内容が記憶に残り、過去問を解いた際に初めて見る単語や人物が少なくなります。この授業内容の記憶のおかげで、教職教養の勉強をスムーズに進めることができました。

② 受験自治体の過去問をたくさん解く。

過去問をたくさん解くことで、自治体の出題傾向を知ることができます。さらに、問題に慣れ、自分の苦手を把握することができます。最初は、丸が1、2個しかつかなかったことを覚えていますが、しかし、苦手を把握し、その部分を補うことができる参考書を活用したり、高校時代の復習をしたりすることで、少しずつ力をつけていくことができました。

③ 一緒に勉強できる友達、頼れる先生を見つける。

私は高校時代の部活動の同級生と一緒に合格を目指し、教職に関する情報交換や校種や科目は違いますが一緒に勉強し、お互いを高め合うことができました。時にはカフェに行ったり、野球観戦に行ったりとリラックスする時間を作りながら、日々勉強に励みました。

また、学校には私たちのことを応援してくれる先生がたくさんいます。勉強を見て頂いたり、面接練習をして頂いたりしたことで自分自身の課題が見つかると共に、常に励ましの言葉をかけてくださっていたおかげで、前向きな気持ちで勉強や試験に臨むことができました。

〈最後に〉

教員採用試験は高校や大学の受験とは違います。今までの自分の経験や体験を信じ、それらを誇りに思い、自分の言葉で語ることができるのが一番の強みになります。頑張ってください！



合格体験記(富山県・高校福祉)

社会福祉学部 社会福祉学科 人間福祉専修4年 山崎陸

1. 1次試験(教養、集団面接)

一般教養と教職教養はとにかく過去問を解きました。5年分を最低3周はしたと思います。覚えていない用語や人物、間違えた問題はノートその都度書いていました。なぜ正解できたのか、なぜ間違えたのかを意識して復習をしました。

専門教養の勉強が1番大変でした。私は普通科出身のため、高校福祉について詳しくありません。教育実習時にお世話になった指導教諭に勉強の仕方を教えてもらったり、記述問題の添削してもらったりしました。勉強の仕方としては、介護福祉士の国家試験の過去問を解いて基礎知識を詰め込み、教員採用試験の過去問で腕試しをするというサイクルを繰り返しました。福祉科の教科書と過去問を並べて置き、既出の分野や範囲には斜線を入れ、当日出る問題や分野をある程度予測して当日は試験に臨みました。

集団面接は、テーマに沿っているか、他の受験者の意見を踏まえているかを意識して試験に臨みました。対策としては、過去のテーマを調べる、自分が試験官ならどのようなテーマにするか考えることをしました。教育系のニュースや記事、本をチェックしておくことで意見の幅が増えるのでおすすめです。

2. 2次試験(小論文、個人面接)

面接は過去問を参考にしながら出される質問とその回答をセットに紙やワードに書き出して対策しました。10個以上考えておくと、似た質問にも対応できるので、リラックスして面接を受けることができます。回答を考える際には、どんな経験をしたか、その経験での自分の役割や仕事、経験から学んだこと、その経験を学校現場でどう活かすかを中心に考えました。

小論文対策は重点的に行いました。小論文の型に当てはめて行うことが苦手で、小論文対策のサイトを見ながら練習しました。過去問からテーマを探し、最低1日1個は小論文を書きました。テーマによっては、インターネットの利用についての方針やいじめに関するガイドライン等の情報や知識が必要になってくるので、ただ書くだけでなく、調べることも大切になってきます。

3. これから試験に臨む人へ

試験の2カ月前からの勉強だったので、日々焦りを感じていました。これを読んだ人は、少ない時間でもいいので、早めの対策をおすすめします。試験を突破するには、教員になってやる、という覚悟と仲間や先生に頼ってもいいんだという気持ちが必要だと思います。今、試験に対して不安になっている人もいますが、これまで頑張ってきた自分がいます。支えてくれる人がいます。自分や周囲の人々を信じていきましょう。私も教員1年目を頑張るので、一緒に頑張っていきましょう。健闘を心から祈っています。





合格体験記（名古屋市 中学校・社会 / 高等学校・地理歴史）

経済学部 経済学科4年 池田大雅

1. 1次試験の対策

教員採用試験の対策を始めたのは3年生の1月ごろからでした。1月1日に「採用試験が今年にある」という焦りから日本史の参考書を開いたのを覚えています。

1次試験の対策では、問題演習を中心に行うことを心がけました。まずは過去問を見て出題形式やよく出る内容などを把握しました。その上で、専門教養に重点を置いて、問題演習を行なって間違えた部分をノートにまとめるという形で勉強をしました。また、教職教養についても問題演習をしてノートにまとめるという形で勉強し、それと同時に月刊誌の『教職課程』や『教員養成セミナー』などを使いながら教育時事などの対策を行いました。一般教養については、1年生の頃から個別指導塾で5教科の指導をしていたため、過去問を解くくらいで対策にあまり時間を割きませんでした。

1次試験の対策をする際は、全てを網羅することは難しいと思います。過去問を見て自分の得意不得意を考え、狙いを絞りながら勉強していくことをおすすめします。そして、対策をする中で一番大変だったことは、モチベーションを保つことでした。周りに採用試験を受ける人がほとんどおらず、真っ暗闇を一人で走るような感覚になることもありました。そんな中でも同じように採用試験に向かって勉強する数少ない仲間や、近くで支えてくれる人がいたからこそ乗り越えられたと感じています。

2. 2次試験の対策

2次試験の対策は始めるのが遅かったと、とても後悔しています。私は、1次試験が終わった直後から対策を始めました。大学の面接対策講座などに参加したり、就職活動をしたりしていたので、全くのゼロからのスタートではありませんでしたが、それでも苦労しました。そのため、「1次試験は受かるかも？」という思いで、早いうちから対策しておくのがおすすめです。

なぜ教師になりたいのか、どんな教師になりたいのか、問題が起こったらどう対処するのか、など様々な質問を想定し、面接ノートを作ってまとめていきました。それでも想定していない質問を訊かれることがあるので、自分の“軸”をもつことが大切です。また、名古屋市では教育振興基本計画やいじめ防止対策推進法など教育時事的な質問もされるので、名古屋市や文科省が出す資料に目を通しました。

2次試験の対策において最も大切なのは、練習することだと思います。大学の先生に練習をしてもらうことで面接力が上がるのはもちろん、私からも質問をして先生の考えや経験を聴くことで自らの回答をブラッシュアップすることができたので、時間の許す限り先生に練習してもらおうと思います。

3. これから受験するみなさんへ

教員採用試験の対策は長く辛い道のりです。私は何度も心が折れかけました。それでも幼い頃から夢だった先生になるという思いと、周りの人の支えがあったからこそ最後まで走り抜けることができました。きっと、あなたも一人ではありません。たくさんの支えてくれる人がいます。私も応援しています。

夢はいつか叶います。これを読んでくださったあなたの夢が叶うことを心より願っています。がんばってください！

2023 年度 教員採用試験をふり返って



教職課程副センター長 齋藤一晴

今年度の教員採用試験は、社会福祉学部、経済学部、国際福祉経営学部、スポーツ科学部で昨年度よりも採用者を多く出すことができた。教育・心理学部は若干、採用者数を減らしたものの、大学全体としては過去最高であった昨年度と同水準という結果であった。

採用者数が高いレベルで維持できている理由として、以下が考えられる。①コロナによって社会経済状況の行く末が不透明なため、入学当初からの目標であった教員という仕事にむかって一直線に勉学に励む学生が少なくないこと。②小学校の場合、倍率が2倍を切る自治体も多く、採用されやすい状態が続いていること。③自治体による教員採用試験の説明会および大学推薦枠の増加といった学生の教員離れに歯止めをかけようとする取り組みが続いていることなどである。

教職課程センターは、教授 WG の一員として、教職課程事務室、キャリア開発課、学務部と連携しながら教員採用試験対策講座を実施している。近年は、ほぼ毎月行うまでに回数を増やし、内容も面接練習だけでなく小論文講座や試験問題を実際に解いて解説をするといった従来よりも実践的かつ多様なニーズに応えられる企画を行っている。各教員採用試験対策講座後に学生から寄せられたアンケート結果によれば、おおむね満足度は高いようである。

コロナの影響で、その流行以前と比べると各自治体が対面で行う面接試験や試験科目が減少したように思われ、筆記試験の占める割合が高まっている。そのため学生のなかには筆記試験対策に迫られ、それで精一杯という場合も存在する。また、一部の学生は、たとえ教員採用試験に落ちたとしても、講師として3年間担任を務めれば一次試験を免除されたり、何らかの加点がもらえるからと考えて、不採用をまったく気にも留めず、勉強しないものさえいる。私の印象としては、学生が各自治体の試験内容や採用方法に振り回されている、というのが実情だと感じている。学生の一途な思いや4年間の学びをストレートに受けとめてくれる選抜方法にして欲しいと願うばかりである。

惜しくも今年度の教員採用試験で採用されなかった学生も、課題を整理して来年度ぜひもう一度チャレンジして欲しいと思う。課題を探すことは、単に教員採用試験に合格するためのテクニック的なものを向上させるためだけでなく、自分なりの教育観や授業観、教材論などを深めるためにも役立てられると考える。教員採用試験をゴールとして位置づけるのではなく、どのような教員になって子どもたちと何を学び合いたいのかを意識して準備や対策を継続して欲しい。

私も高校、大学で教えて四半世紀になる。これまで自身の専門以外の研究領域や教育活動に関わっている先生方と協働する経験は少なかった。今後は、協働することで初めて分かることを学生たちと共有しながら、彼らや彼女たちの目標の一つである教員採用試験の突破のためにサポートを続けていきたい。教職課程センターでは、美浜、東海キャンパスを問わず、平日の午前と午後、学生たちを受け入れている。教員採用試験対策に関わる参考書や過去問、模擬授業に使える文献なども取りそろえている。ぜひ、足を運んで活用して欲しい。また、教員採用試験や教育実習、模擬授業、日々の授業のなかに分からないことがあれば、在室当番の教員に声をかけてみて欲しいと思う。





教員一年目の感想

スポーツ科学部 スポーツ科学科 2022 年度卒業
和歌山県立特別支援学校教諭 中村光希

私は大学卒業と同時に教員として働き始めました。1年目ということもあり、覚えることや、授業を作っていくことなど様々あり、とても大変ですが、子ども達の成長を実感する場面には、特にやりがいを感じ、つらいこともあります。楽しくやっています。

私は現在、小学部4年生で知的障害のあるクラスの担任をしています。知的障害と一概に言っても、個性や障害が様々であり、1人1人に応じた指導をしていく事への難しさを感じています。それでも、子ども達が先生とよってきてくれたり、言語を発することができない子どもも、肩をたたいたりして呼んでくれます。はじめはそのようなことも全くなかった子ども達ですが、それでも時間をかけて関わっていくにつれて信頼関係を築いていくことが少しずつできています。普段の関わりや授業の中でこだわりを持っている子ども達が多くいて、順番で「一番になりたい」や「勝ちたい」などに固執しており、もし負けてしまったときなどには崩れてしまい、授業に参加できないことも起こるため、日々工夫して取り組むことに難しさもあります。その一方で「負ける」ことを経験することも必要なのかなど、教員同士で話し合い、どうするのかを葛藤しています。

7月には、校内宿泊学習がありました。普段、とても元気な子ども達であるため、公共施設で温泉やご飯を食べることに不安を感じていました。しかし、行ってみればその思いとは裏腹に周りに気を遣い、事前学習で行った約束をみんなで守ることができました。その瞬間に私は、今まで関わってきて、新たな一面を見られた喜びと、約束を守って静かに過ごすことができることの成長に教員をしていて良かったと感じたと同時にとてもうれしくなりました。つらいことが多い中ですが、子ども達から関わってくれることや、成長を感じられた時、授業を夢中になって受けてくれていることなどにととてもうれしさを感じています。うれしさを感じるのと反対に、大変だと思うこともたくさんあります。上記でも述べた、子どもとの関わり、一斉授業でも子どもの段階が大きく違い、授業を考えることへの難しさ、1年目ということもあり初任者研修や学校のことを知っていかなければいけないなど、たくさん大変なこともあります。

最後に、これから教職を目指そうとしている方へお伝えしたいことがあります。まだ1年間も働いてはいないですが、様々な大変なことがありました。しかし、大変なことがあった先には、必ず達成感やうれしさを感じる場面があります。もしなかったと思っても、それは成長の一步を踏み出すことができたプラスに考え、日々笑顔で仕事ができるように取り組んでほしいと思います。子どもは先生の姿を見ていないようで見えています。しんどい時こそ「笑顔」で、「疲れたときはしっかり休む」当たり前のようでとても難しい事です。少し働いていくと、この大切さを身にしみて実感しているため、学生の時から少しずつで良いので意識して行って欲しいと思います。





余暇は少ないけれども充実した毎日

経済学部 経済学科 2020 年度卒業生
岐阜県私立高校教諭 池畠弘陸

私は、日本福祉大学経済学部経済学科を卒業し、岐阜県の私立高校で非常勤講師を2年間務め、現在は学校が変わり、岐阜県の私立高校で期限付き専任教諭として社会人3年目25歳です。

まず、現在の私の生活ですが実家が福井県なので岐阜県で1人暮らしをしています。月曜日から金曜日は通常勤務で毎朝7時半ごろ家を出て車で学校へ向かいます。学校につき8時過ぎから職員朝礼が始まります。職員朝礼後、自分の担任のクラスへ行き朝礼を行い生徒に連絡事項を伝えます。その後は、自分の時間割に合わせて教室へ行き授業を行います。今年は、2年生普通科の日本史探求と2年生スポーツ科の地理総合を担当しています。6時間目の授業が終わると自分の担任のクラスへ行き終礼を行い、その後私も生徒もそれぞれ部活動へ行きます。私は前任校同様サッカー部を顧問しています。部活動のチーム練習が終わると居残りで自主練習を行う生徒もいるので、一緒に練習をし、時には20時半まで一緒にボールを蹴っている日もあります。そして、家に帰り入浴と食事を済ませ、22時頃から授業の準備をし、終わり次第就寝といった生活を送っています。

次に、教員になって良かった所とつらく感じる所について書かせてもらいます。まず教員になって良かった所は、毎日楽しく日常を過ごせている所です。放課後や休日に行う部活動では、多くの時間を費やしますがその分結果が良かったときや生徒がプレイで何かに成功したときは私もとても嬉しく思います。授業でも生徒が積極的に発言してくれた時や分かったと理解してくれた時は嬉しいです、担任をしている生徒と体育祭など学校行事を行うときは一緒に盛り上がり、仕事だと実感しないくらい楽しいです。教員になってつらく感じる所は、余暇の時間が少ない所です。家族や友人との予定に私だけ参加できないことが多く、参加したかったと寂しく思うことが多々あります。

最後に、教員という仕事について書かせてもらいます。まだ、教員3年目で教員の世界を語るには恐れ多いですが、教員は定額働かせ放題の仕事とよくいわれます。そこに間違いはないと思います。しかし、大変さとやりがいは表裏一体で大変だからこそ楽しい、嬉しい、やってよかったと思えるそんな仕事なのではないかと思ひ生活しています。





学生のみなさんへ

子ども発達学部 子ども発達学科 2021 年度卒業生
大分市小学校教諭 真砂加奈

はじめに

私は、現在大分県大分市の小学校教諭として働き始め3年目になりました。毎日やる気に満ち溢れている教員ではありません。目まぐるしい1日を過ごしていると気づいたら3年が経っていました。しかし、たまに立ち止まって自分の子どもとの関わり方、保護者とのつながり、多くのことに落ち込んだり嬉しくなったり、そしてまた立ち上がるような日を過ごしています。まだまだどうすればいいのかと迷う毎日ですが、少しずつ変わっていく自分を感じた経験をご紹介しますと思います。

強くなった2年目

私は、2年目で「強くなった」という表現が合うような経験をしました。4年生34名の子どもとの出会いの初日、教室に入ったら殴り合いをしている子どもたち。大変な1年になりそうだと感じました。そこから学習規律や友だち同士の付き合い方、楽しくてわかる授業。子どもにたくさん教えないといけないことはあるけれどどのような言葉や方法で教えればいいのかわからない2年目の私。何の方法もわからないからこそ頼れるのは自分の長所である明るく人と話せるところを最大限に発揮することだと思いました。子どもだけでなく、遠慮せずに同じ学年部の先生方にもです。子どもへの指導の仕方をたくさん聞きました。叱り方を見て学びました。先生方の指導の仕方と子どもの反応や成長を見ては自分にできることをとにかく実践してみました。3年目の今ではそれが少しずつ自分のやり方として定着しようとする部分もあります。

何よりも悩んだのが保護者との関わりです。2年目でもあり、至らない点ばかりの私ですが、納得がいかず理不尽だと思ってしまう日が続きました。子どもの話をたくさん聞き、気持ちを尊重して関わっていても伝わらない。「何をしても文句を言われる」とマイナスな思いでいっぱいでした。毎日保護者と電話をして思いを伝え合い、会って指導の方針を話し合ってたくさん悩みました。相手の気持ちをくみ取りながら一緒に子どもを育てるということを忘れてはいけないと思える経験でした。「やめたい」と思った時もありましたが、「絶対諦めない」と強く気持ちを奮い立たせていました。それは、何よりも先輩方のフォローとやさしい声かけに助けられたからです。安心してください。学校にいる色々な立場の先生にたくさん助けてもらえます。本当に「チーム学校」であることは働いてから感じてみてください。

日本福祉大学でよかったなと感じた3年目

現在、32名の1年生を担当しています。よくある1年生の行き渋りや場面緘黙、グレーゾーンなどいろんな子どもがいます。意思疎通が取れずにお互いモヤモヤすることが多いです。それでもその子どもと言葉以外にもつながれないか試行錯誤しています。どちらかというと何も考えずに過ごしてきた大学生活だったと思っていましたが、大学で出会った仲間と一緒に考えて経験してきたことが今の私の「試行錯誤」になるものだと気づきました。大学では、福祉・教育の分野についてたっぷり浸ることができます。仲間と充実した大学生活を過ごしてくださいね。応援しています。



教育実習体験報告

国際福祉開発学部 国際福祉開発学科 4年 松下文音

愛知県の中学校での教育実習において、教職を目指す学生としての学びに加えて、大人として、社会人としての自分自身も大きく成長させることができたと感じている。

自分の成長を強く感じた点は、「良い授業づくり」への考え方の変化である。これまで、大学で多くの模擬授業の実施機会があったが、私は「生徒が楽しめているか」「生徒が学べているか」を「良い授業」の判断基準としており、生徒の視点ばかりに気を使っていた。もちろん、授業の主体は生徒であり、生徒の学びを一番に考えなくてはならない。すると、私は生徒の視点を気にしすぎるあまり、余裕がなくなり、緊張と不安で、「生徒の様子や言動に反応しなくては」「うまくできるだろうか」という思いで頭がいっぱいであった。しかし、教育実習の研究授業では、「授業はこんなにも楽しくできるのか」と感じられ、私自身が授業者の立場でここまで授業が楽しいと思えたのは初めての経験であった。

私がその研究授業を楽しめた理由は、その授業に自信があったからである。その自信は、入念な授業準備から生まれたと考えている。実際、研究授業に向けては、指導教員に生徒役として参加していただきながら繰り返し事前練習を行い、アドバイスを活かして改善していった。教師の立ち位置から教師の指導言の一つひとつまで細かく確認し、少しでも自分の不安要素が無くなるように取り組んだのである。その結果、過度な緊張や不安はなくなり、私自身がこれまでの中で一番「楽しい」と感じる授業を、自信をもって実施することができた。多くの生徒からも「楽しかった」と言ってもらうことができ、さらに、御参観くださった先生方からも好意的に評価していただくことができた。

私は授業前に入念な準備が、いかに教師の「自信」に繋がるのかを実感した。そして、生徒とともに自分自身も楽しいと思える授業づくりが「良い授業」へとつながっていくと学んだ。教職担当の先生が何度もおっしゃっていた「教師が繰り返し行う授業は、生徒にとっては人生で一回しか行われぬ。授業の準備は二カ月前から始めるべきだ」という言葉を思い出し、改めてのその言葉の意味を理解することができた。授業づくりのために十分な時間と手間をかけることで教師としての「自信」につながり、生徒の楽しそうな反応や学びの成果から、教師自身も「授業を楽しめる」ことを発見したのである。

実習期間中には、英語科の教員としての英語能力の乏しさを痛感し、生徒の前に立つにはまだまだ多くの研鑽を積む必要があると考えさせられた。また、自分自身の留学経験から世界の広さや文化の違いを知る面白さを伝えたり、ある英単語から英語の歴史や豆知識を伝えたりするなど、生徒の興味を引く話のできる先生方を見て、個性的で厚みのある授業は、深い知識や豊富な経験に裏付けられているとも感じた。このように、教育実習は人生で一度しか経験できない貴重な気づきの機会であり、これまでの大学生活の中で自分自身が最も成長できた期間であったと言える。これを財産として、今後のキャリアに活かしていきたい。





教育実習体験（高校）

経済学部 経済学科4年 加藤遼馬

私は、5月29日から6月16日までの三週間公立高校で教育実習を行った。

最初の週の活動は主に、授業見学だった。自分が授業実践を行う歴史総合や地理総合を中心に、社会科学の授業を見学した。見学をしていって感じたことは、教科書の内容よりも深い学習を行っているということである。授業見学をしているなかで、どの先生方も教科書に書いている内容に加えて PowerPointなどの補助資料を使い教科書の内容を詳しくより鮮明にして生徒たちに伝えていた。それまでの自分は教科書の内容をどう伝えることしか考えていなかったため、とてもいい勉強になった。

2週間目からは、授業実践が始まるため、授業を作ることに迫られていた。授業の構想を立てて担当の教員と相談して、また作っての繰り返しだった。そして授業をしてみて感じたことは、模擬授業とは違うということである。大学の授業の中に何回か模擬授業を行う機会があったが、実際の生徒の前で行う授業では責任感が全く違った。大学生を前にしている模擬授業は、ある程度知識があるため自分のペースで授業を進めることができる。しかし、実際の授業では、初めて知る生徒が大半なため、生徒が理解しているか確認しながら授業を進める必要があるため、自分が計画しているようには進んでいかないし、自分が欲しい意見や考えもでにくいため、その答えをどう導き出すのかという臨機応変な対応が求められるのである。また、対話的な授業を行う際は生徒とのコミュニケーションが不可欠である。私が教育実習先で初めて授業を行った際は、それがまだ不十分だったので、活発な対話的な学習をすることができなかった。しかし、実習中に学校行事があり、そこで生徒と積極的にコミュニケーションをとったことにより、それ以降は、活発な対話的な授業をすることができたので、授業をする際は生徒とのコミュニケーションも重要なのだと実感した。

3週間目は、研究授業の作成に迫られていた。指導案作りや研究授業の準備を、その他の授業も行いながら同時進行で作っていかなくてはならないのでとてもしんどかった。しかし、授業を行うたびに自分が成長していることを実感することができるし、生徒たちとも自然に話せるようになっていくので、教員という仕事の楽しい面としんどい面の両方を感じることでできる期間であった。

教育実習はわからないことだらけで困ることが多くあると思うが、そういうときは担当教員の先生に相談したり、別の教科の先生に相談したりするなどどんどんコミュニケーションをとっていけばいいと思う。また、生徒と関わる時も、向こうから話しかけてくれるのを待っていては、仲は深まることはないなので、積極的に行動することが必要である。積極的に活動することで、生徒とのコミュニケーション方法も学ぶことができるし、充実した実習が送ることができると思う。

今後の予定

【3年生（1・2年生の参加も可）】

教員採用試験合格体験報告会

2023年12月21日（木）13:25～14:55

愛知県・神奈川県 教員採用試験学内説明会

2023年12月21日（木）15:05～16:35

【1年生】

教職課程オリエンテーション

2024年3月21日（木）3・4限 美浜キャンパス・東海キャンパス

教職課程登録期間 2024年 3月下旬を予定